

# 中国から西安中学 来校

八月二十六日から三十日にかけて姉妹校交流のため、中国陝西省西安中学の生徒十一名と、教員四名が来校しました。西安中学の生徒は、本校で、またホストファミリーのもとで、熱烈な歓迎を受けました。また、授業にも参加し、放課後には卓球、弓道のクラブ活動の体験も行い、交流を深めました。



以下、交流後の感想

附属中学二年 熊谷 悠月

私は、初めて会った人と積極的に話すことができる性格ではないので、留学生が家に来てくれたことで時間をかけてコミュニケーションをとることができました。また、留学生とたくさん話すことで、中国と日本の文化の違いを知ることができてとても良かったと思います。交流を通して言葉がうまくでなくても、伝えたいと思わずにコミュニケーションをとり続けられれば、大体のことは伝わるものだと思います。逆にお互いの言葉を知らなければ細かいニュアンスが伝わらず誤解が生じることがあるということも感じました。私たちの世代がこうして交流することは、とても有意義なことだと思います。今回の西安中学ホストファミリーとしての体験を通して、他国の文

化を知ることができたので、機会があればまた海外の人を受け入れたい、実際に海外に行ってみたいと思いました。



三年六組 小林 千華

今回、西安中学生徒のホストファミリーを経験したことは、自分に足りないものを見直す良い経験となりました。語学の面でも生活習慣や気配り等の面でも、もっとこうすればよかったと思うことや、できたらよかったと思うことなど後悔している部分が多々あります。しかし、ホストファミリーを経験して、本当によかったと思っています。私は、英語が苦手な海外の人と交流する際、同じ班にい

るコミュニケーション能力が高く英語がよくできる人に任せてしまいうことが多く、私自身がしっかりと行うことを怠っていました。しかし、西安中学の生徒を受け入れることで、家庭においても必然的に英語を話す機会を持つことができました。今回は、うまく伝えられなくても翻訳機を通して会話することもありました。もし、またこのような機会があれば、もっと積極的に向き合いたいと思いました。

